

12/2 三戸小創立 150 周年記念式典

長い歴史の節目を祝う

小中一貫三戸学園三戸小学校（島守詩子校長）の創立 150 周年記念式典が三戸小中学校第 2 体育館で行われ、三戸小・中学校の児童生徒と関係者は、長い歴史の節目を祝いました。

同校は明治 6 年に開校し、平成 25 年には施設一体型の三戸小・中学校と、連携型の斗川小学校で構成される小中一貫三戸学園が発足しました。同学園は、ふるさと三戸に誇りを持つことなどを目的とした町独自教科「立志科」や小学校 1 年生から学ぶ英語など、特徴的な学びが実践されています。

式典では、歴代の校長、父母と教師の会会長、永年勤続職員に感謝状が贈呈されました。島守校長は「三戸小を大切に思う多くの人がいることに誇りを持ち、新しい歴史を刻んでいきましょう」と児童たちに呼びかけました。児童を代表し、高橋璃帆さん（6 年）は「『向学・立志・健康』の校訓の下、誇りをもって未来へバトンをつないでいきたいです」とあいさつしました。

記念発表では、同校吹奏楽部の演奏や、全校児童による「Believe」の記念合唱が行われました。



式典で校歌を斉唱する児童



佐々木代表理事（左から 2 番目）と松尾町長（右から 2 番目）

11/21 ムービングハウス協会と町が協定を締結

災害時の応急仮設住宅に活用

町は、一般社団法人日本ムービングハウス協会（佐々木信博代表理事）と災害時における応急仮設住宅（移動式木造住宅）の建設に関する協定締結式を行い、松尾和彦町長と佐々木代表理事が協定書を取り交わしました。本協定により、大規模災害時に、協会から住宅建設事業者のあっせんを受けることで、応急仮設住宅の早期提供が可能になります。松尾町長は「全国的に大規模な災害が発生しており、有事の際には被災者の生活安定や健康被害のリスクを軽減し、良質で快適な居住スペースが確保できるものと期待している」と話しました。佐々木代表理事は「災害時は早急に住居を確保し、一日でも早い復興を実現する一助となりたい」とあいさつしました。

11/22 (株)ライトライトと町が業務連携を締結

「後継者不足」解決に向けて始動

町は、事業承継マッチングプラットフォーム「relay」を運営する(株)ライトライト（齋藤隆太社長）との業務提携について発表し、三戸町の情報に特化したウェブサイト「relay the local 三戸町」を開設しました。このサービスは、事業や会社を譲り渡したい中小企業者（農家を含む）と事業を譲り受けたい継業希望者をマッチングさせるサービスです。松尾和彦町長は「長年、培ってきた地域資源を引き継ぐことは、地域全体にとって大きな利益になる。事業承継を推進することは、地域の課題解決に役立つものと期待しています」と話しました。齋藤社長は「事業者が町や商工会においている信頼と本社の知識・技術をあわせて、後継者の確保につなげていきたい」と意気込みました。



（左から）齋藤社長、松尾町長

## 11/9 「税に関するイラスト・標語作品」表彰式

### 税金の大切さを知ってほしい

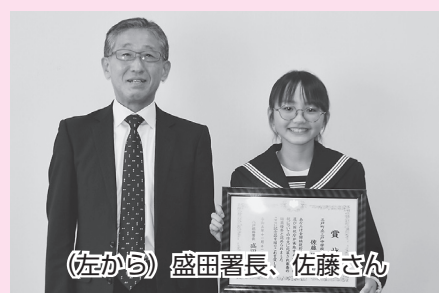
三八租税教育推進協議会（斎藤信哉会長）が主催する「税に関するイラスト・標語作品」に小中一貫三戸学園三戸小学校（島守詩子校長）の児童が応募したところ、大村菜摘さん（6年）は八戸法人会長賞を、西柚妃さん（6年）は八戸間税会長賞を受賞しました。八戸市のショッピングセンターラピアで行われた表彰式には、大村さんが出席しました。大村さんは「税金の大切さや、使い道を多くの人に知ってもらえたらうれしいです」と話し、西さんは「税金への関心が深まって良かったです」と話しました。



表彰された大村さん

## 11/16 「税金についての作文」表彰式

### 税についての理解を深める



(左から) 盛田署長、佐藤さん

小中一貫三戸学園三戸中学校（島守詩子校長）2年の佐藤遙乃さんが、「税金についての作文」で八戸税務署から署長賞を受賞しました。この賞は、管内から寄せられた189編のうち2編に与えられるものです。三戸学園校長室で行われた表彰状授与式では、八戸税務署の盛田浩明署長から佐藤さんに表彰状が授与されました。

佐藤さんは「税金について図書館で勉強し、基本的なことを学びました。作文を書いてみて、身近にいる人たちの印象が良い意味で変わった」と話しました。

## 11/21 「青森県農業委員会大会」で町農委が表彰

### 町農業の発展に尽力

三戸町農業委員会（梅田晃会長）は、県内農業委員会の模範となる活動をした委員会に授与される「青森県知事賞」を受賞しました。町委員会は、地域の農地を活かし、農地中間管理事業を活用した担い手への農地の利用集積・集約化の推進や遊休農地の発生防止・解消対策などの取り組みに力を入れています。青森市のリンクステーションホール青森で行われた青森県農業委員会大会では、宮下宗一郎県知事から梅田会長に表彰状が授与されました。



宮下知事から表彰状を受け取る  
梅田会長

## 11/22 田中又エさんがめでたく100歳を迎える

### 元気の秘けつは好き嫌いなく食べること

田中又エさん（大正12年11月18日生まれ）が、めでたく100歳の誕生日を迎えました。役場で顕彰が行われ、又エさんは松尾和彦町長から顕彰状と祝い金、記念品を受け取りました。



顕彰状を掲げる又エさん（中央）

三戸町斗内で生まれた又エさんは、昭和21年に結婚した夫の精一郎さんとともに、たばこ農家として働いていました。又エさんは「好き嫌いなく何でも食べることが元気の秘けつです。特にバナナが好きでよく食べていました」と笑顔で話しました。

## 11/7 「全国学校給食甲子園」に出場

### 給食で、地元食材の魅力を伝えたい

三戸町学校給食共同調理場は、学校給食日本一を競う「第18回全国学校給食甲子園」に出場しました。同甲子園は、全国の栄養教諭、学校栄養職員が実際に給食で提供した料理で献立を組んで応募するものです。同調理場が応募した献立は「麦ご飯、牛乳、陸奥湾ほたてと白菜のとろたま煮、こかぶとりんごの菊花あえ、ながいも入りひつつみ」で、第3次審査を突破し、総応募数1,079件から選抜された23代表となりました（第4次審査で落選）。

応募した献立を考案した栄養教諭の藤倉佐知子さんは「これからも、給食を通して地元においしい食材や郷土料理があることを広く伝えていきたいです」と話しました。



応募した献立



(左から) 松尾町長、坂本常務、橋本局長

## 11/24 郵便局はがきセットを企画

### 年賀・サンタはがきセット販売中

三戸郵便局（橋本正俊局長）は「11ぴきのねこ」のイラストを採用した年賀はがきとサンタはがきのセットを製作したことを町に報告・寄贈するため、役場を訪れました。橋本局長とはがきを印刷している、(株)坂本印刷所の坂本克常務が役場を訪れ、松尾和彦町長にはがきを手渡しました。はがきを受け取った松尾町長は「11ぴきのねこファンが町を知るきっかけになってほしい」と話しました。

## 11/24 「環境出前講座」を開催

### ごみの削減方法について学ぶ

県環境パートナーシップセンターの職員によるリサイクルやごみの分別について学ぶ環境出前講座が、小中一貫三戸学園三戸小学校（島守詩子校長）の5年生57人を対象に、三戸小中学校第一体育館で行われました。児童は買い物体験を行い、ごみを減らす方法や環境に配慮した買い物の仕方について学びました。その後、町職員が学校給食に絡めた内容で、食品ロスの削減方法について講義をしました。

参加した児童は「ごみを減らすために、今回の講座で勉強したことを実践したい」と感想を話しました。



模擬店で買い物体験をする児童



松尾町長（左から2番目）と齋藤執行委員長（右から2番目）

## 11/30 みちのく労組が町に図書カードを寄贈

### 子どもたちの読書活動推進に貢献

みちのく銀行労働組合（齋藤拓也執行委員長）は、子どもたちの読書活動推進を目的として、町に10万円分の図書カードを寄贈するため、役場を訪れました。齋藤執行委員長は「活字に触れながら、勉学に励んでほしい」と話し、松尾和彦町長に目録を渡しました。

これを受けて松尾町長は「子どもたちの読書活動推進のために活用します」と話し、齋藤執行委員長に感謝状を渡しました。